

柿本 恵都湖 優秀審査員賞

滋賀県大津市

高橋 早智子

## 彼女からの手紙

私達は「ロバ耳会」と称する飲み会で日頃の鬱憤を晴らす仲の良いパート仲間だった。

その中の一人に肺癌が見つかった。彼女は手術や入院治療を拒否し海外旅行やコーラスなど元気に続けていたが十年経った昨年末、彼女の癌が末期にまで進行していると知った。

「心配していただき有難う♡当の本人は少しの落ち込みもなく呑気で未だにあちこち国内旅行に行っています。さすがに飛行機は気圧の関係で呼吸が苦しくなるらしいので無理ですが…。何でも行ける内、出来る内に実行するべきですね。その点、悔いは無し！です」

と彼女らしい気丈な返信メールだった。

今年の一月九日、「私は遂に在宅酸素のチューブに繋がれ紐付きになりました。息子一家、妹、娘がチームを組んで涙が出るほど良く面倒を見てくれて有難いです。これから先の事は判りませんが成る様に成ると気に病まず呑気にしています」とメールが届いた。

翌月、二月二十一日、彼女は亡くなった。

彼女の葬儀の挨拶状には「この度は私、〇〇〇の死去に際しまして ご多忙の中、又 遠路ご参列下さいまして誠に有難うございます。生前は色んな所へ旅しましたが今回の「旅」は行ったきりの旅ですので あの世が どんな所だったのかをご報告できないのがとても残念です。でも私は先に旅立った懐かしい人たちが待っていてくれる素晴らしい場所だと固く信じています。

この世でのご縁と、そしてお世話になりました事を心より感謝いたします。有難うございました」と彼女の文が印刷されていた。

葬儀から帰ると我家の郵便受けに一通の手紙が届いていた。「今日までのお付き合い有難うございました。あのユニークな職場でお知り合いになり、おかげで皆が一致団結し、笑い転げ楽しかった。一足先に失礼しますがあちらで石川さんに会えたら「二人ロバ耳会」で盛り上がるかも…。それではお元気で」と彼女のしっかりした綺麗な字で書かれていた。